

実験教室 開催報告

宮川翔太, 秋田正之, 梶原謙次郎, 大西喜弘, 丸山淑史, 生田智大

工学部ものづくり技術教育支援センター

工学部ものづくり技術教育支援センターは第 69 回 岐阜大学祭にて地域交流活動の一環として実験教室を開催した。実験教室ではドローン体験, 化学実験, 栗製作をおこない, 地域の方々と交流を深めた。

Key Words : 実験教室, 地域交流

1. はじめに

ものづくり技術教育支援センターに所属する教室系技術職員は実験実習への参画や安全・衛生に関する活動を主な業務としている。今年度は学内だけではなく学外にも目を向け地域住民との交流をおこなった。

本稿では, 地域交流の一環として企画した実験教室について報告する。

2. 実験教室の概要

ものづくり技術教育支援センターは地域交流を目的とし, 毎年行われている岐阜大学祭にて表—1 のとおり実験教室を開催した。

表—1 実験教室概要

日時	平成 29 年 10 月 28 日(土)9:00-17:00 (第 69 回 岐阜大学祭 3 日目)
場所	岐阜大学 工学部棟 化学・生命工学科実験室
参加費	無料
内容	児童向け実験教室

3. 実験教室の内容

実験教室では, ドローン体験, 化学実験, 栗製作を行った。

ドローン体験では, 用意したドローンを見てもらいながらドローンの飛行原理や危険性について参加者に説明を行った。その後, 実機を使った操作及びシミュレータを使った飛行シミュレーションを体験してもらった。参加者はなれない操作に戸惑いつつもドローンに興味を持ち, 操作を楽しんでいる様子だった。



図—1 実機操作体験



図—2 シミュレータ操作体験

化学実験では炭酸水素ナトリウムとクエン酸を使い入浴剤作りを体験してもらった。どちらの試薬も食品に使われるものであり小さな子供でも安全に実験することができる。作った入浴剤は参加者にプレゼントとして持ち帰ってもらった。



図—3 化学実験

葉製作ではラミネーターを使い押し花の葉を作ってもらった。台紙に押し花を乗せラミネータを通すだけで簡単に作ることができる。



図—4 葉製作

4. 結論

当日の様子や実施したアンケートから参加者の皆様には実験教室全体を通して概ね満足していただけたようだったが、幾つか改善点もあった。

アンケートには「ドローン(実機及びシミュレーター)の操作が難しかった」、「(化学実験について)もう少し難しい内容もやってみたかった」との意見があった。ドローンについては比較的操作しやすいものを選定したつもりだったが短時間での習得は難しかったようだ。本実験教室は大学祭の出し物の一つであるため短時間かつ手軽にできる化学実験を企画した。それゆえ、人によっては物足りなさを感じたようだ。

大学祭ということで様々な参加者がいると考えられる。参加者に合わせ柔軟に対応できる企画を用意することで、参加者により満足していただける実験教室を実現できると思う。

初めての実験教室の開催であり幾つか改善点は残ったが、これらを踏まえて今後の活動を検討していきたい。

謝辞

実験教室の開催にあたりご協力いただきました、工学部長、事務の皆様また、ご参加いただきました皆様に感謝いたします。